

(別記)

令和3年度瀬戸市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市の水田（214ha※1）の作物作付の現状は、主食用米が作付面積の96.03ha※2となっているが、愛知県から示される生産数量の目標の目安を例年下回るとともに減少傾向にある。一方で、自己保全管理水田の面積が57.10ha※3となっている。

要因として、生産者の高齢化や後継者不足により、遊休化した農地が増加していることが挙げられることから、認定農業者等の育成、農地利用の集積や生産性の高い農業を推進することで、水田を維持していくことが課題となっている。

※1 令和2年度営農計画書の本地面積

※2 令和2年度営農計画書の主食用米作付面積

※3 令和2年度営農計画書の自己保全農地面積

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

地産地消の取組の一つとして、学校給食に地元産のお米や野菜を提供する取組に力を入れており、自己保全管理水田を活用して野菜作付を積極的に進めることで収益力を強化していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

市内に牛・豚・鶏卵農家が存在する特色を活かして耕畜連携を推進し、WCS用稲や飼料用米の作付を行うことで水田を有効利用していく。

水田の利用状況の点検は、営農計画書及び現地確認によって行い、点検結果を踏まえて、水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田などについては、水田の畑地化の可能性を検討する。所有者や関係者等の意向など条件が整った場合には、支援を活用するなどして畑地化を実施していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

学校給食へお米を提供する取組を通じて、既存農家の作付維持・拡大を図るとともに、農業塾の開催による農業者の育成や、若手農業者への農地集約の推進を図ることで作付面積の維持に努める。

(2) 備蓄米

取組なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、生産者、市内家畜農家、農協及び行政が連携して計画生産を行う。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS 用稲

産地交付金を活用し、生産者、隣接市の家畜農家、農協及び行政が連携して、栽培暦に準じた適正な施肥管理を行うなど生産性と品質の向上を図りつつ計画生産を行う。

オ 加工用米

取組なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

取組なし

(5) そば、なたね

取組なし

(6) 高収益作物

産地交付金を活用し、地産地消の取組として学校給食への提供量を増やしていく予定の「玉ねぎ」「キャベツ」を中心に作付面積を拡大するとともに、生産者の収益が上がるよう道の駅瀬戸しなの産直販売所での地元農産物取扱い割合を増やしていくことで、作付面積を拡大していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	96.03	95.26	93.26
備蓄米			
飼料用米	0.34	0.34	0.34
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲	2.24	2.17	2.17
加工用米			
麦			
大豆	0.18	0.00	0.00
飼料作物			
・子実用とうもろこし			
そば			
なたね			
高収益作物	3.48	4.50	6.50
・野菜 ・花き・花木 ・果樹 ・その他の高収益作物	3.48	4.50	6.50
その他			
・			
畑地化			

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	飼料用米 (基幹作物)	飼料用米の生産性・ 品質向上等	栽培面積	(2年度) 0.34ha	(5年度) 0.34ha
2	WCS用稲 (基幹作物)	WCS用稲の生産 性・品質向上等	収量	(2年度) 3,007kg/10a	(5年度) 3,300kg/10a
3	野菜 (基幹作物)	高収益作物に対する 支援	栽培面積	(2年度) 3.48ha	(5年度) 6.50ha
4	野菜 (基幹作物)	高収益作物等拡大加 算・転換作物拡大加 算	作付拡大面積	(2年度) 0.00ha	(5年度) 1.00ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧(会員名簿)を添付してください。